

## 第4節 西 区

### 4-1 西区の概況と特性

#### 1. 区域の概況

##### (1) 位置・地勢

###### 〈位 置〉

○西区は本市の西部に位置し、面積は約2,862haで全市の約19.1%を占めています。当区域は、堺泉北港から松原泉大津線の南部にいたる南北方向に長い区域で、南西部は高石市、和泉市と接し、西は大阪湾にのぞんでいます。当区域は、南海本線、JR阪和線、阪堺線が通り、鳳駅周辺が地域拠点に位置づけられています。

###### 〈地 勢〉

○区域の大部分は、石津川水系の平坦地形で、西部の大阪湾に面する地先は、埋立地となっています。

##### (2) 人口・世帯数

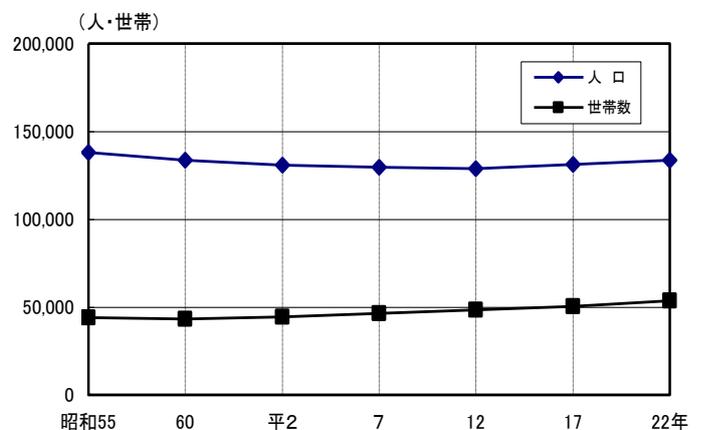
○西区の人口は、平成22年現在約13.4万人で、昭和55年をピークに減少傾向にありましたが、平成12年以降は増加傾向にあります。

世帯数は、平成22年現在約5.3万世帯で、昭和60年以降増加傾向にあります。一世帯当たりの平均世帯人員は2.50人で、ほぼ全市平均となっています。

[本市における位置図]



[人口・世帯数の推移グラフ]



[西区の人口・世帯数の推移]

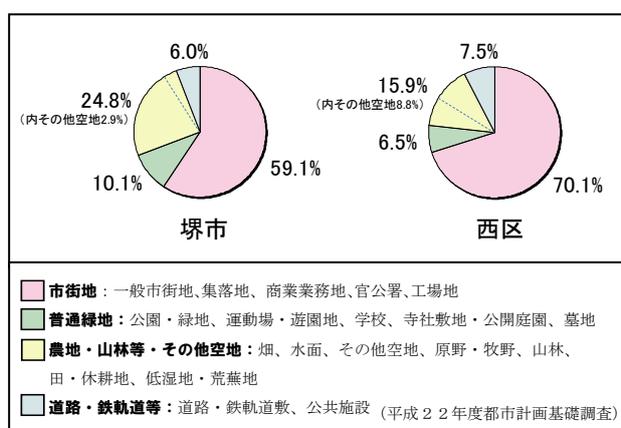
項 目	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
人 口 (人)	137,815	133,719	130,785	129,470	128,627	131,030	133,622
増減率 (%)	5.0	-3.0	-2.2	-1.0	-0.6	1.9	2.0
世帯数 (世帯)	44,062	43,256	44,356	46,265	48,334	50,402	53,442
増減率 (%)	16.5	-1.8	2.5	4.3	4.5	4.3	6.0
平均世帯人員(人)	3.13	3.09	2.95	2.80	2.66	2.60	2.50
全市平均 (人)	3.23	3.18	3.03	2.85	2.68	2.57	2.44

資料：国勢調査

### (3) 土地利用

- 西区の土地利用は、市街地、普通緑地、道路・鉄軌道等の都市的土地利用の比率が84.1%を占め、特に、道路・鉄軌道等の比率が堺区に次いで高くなっています。
- 臨海部（堺第7-3区）の低・未利用地などの空地が8.8%を占め、現在その多くは、大規模太陽光発電所関連施設や共生の森などの整備が進み、都市的土地利用の比率はさらに高まることになります。

[土地利用円グラフ]



### (4) 都市計画施設

- 道路
 

主要な都市計画道路は、南北方向に第2阪和国道、大阪臨海線などが、東西方向に松原泉大津線などが整備されています。下石津泉ヶ丘線、常磐浜寺線、南花田鳳西町線、鳳上線等の一部区間に、未整備箇所があります。
- 鉄軌道
 

南海本線（3駅）、JR阪和線（3駅）が南北方向に走っています。これらと平行して路面電車の阪堺線（3停留場）があります。南海本線（諏訪ノ森駅～浜寺公園駅付近）では、連続立体交差事業を推進しています。
- ※鉄軌道については、都市計画施設以外も含む
- 駅前交通広場
 

JR阪和線上野芝駅（東側、西側）、同津久野駅（東側、西側）、同鳳駅および南海本線石津川駅、同諏訪ノ森駅、同浜寺公

園駅に計8ヶ所計画決定されており、その内4ヶ所が整備されています。

- 自転車駐車場
 

JR阪和線津久野駅駅前に計画決定され、整備されています。
- 都市公園・緑地など
 

浜寺公園をはじめ37ヶ所が計画決定されており、その内32ヶ所、対面積比では約56%が開設されています。
- 公共下水道
 

臨海部を除く区域が公共下水道の計画区域となっており、市街化区域・市街化調整区域ともに、計画区域内の污水管整備はほぼ完了していますが、雨水排水施設は整備途中です。
- その他
 

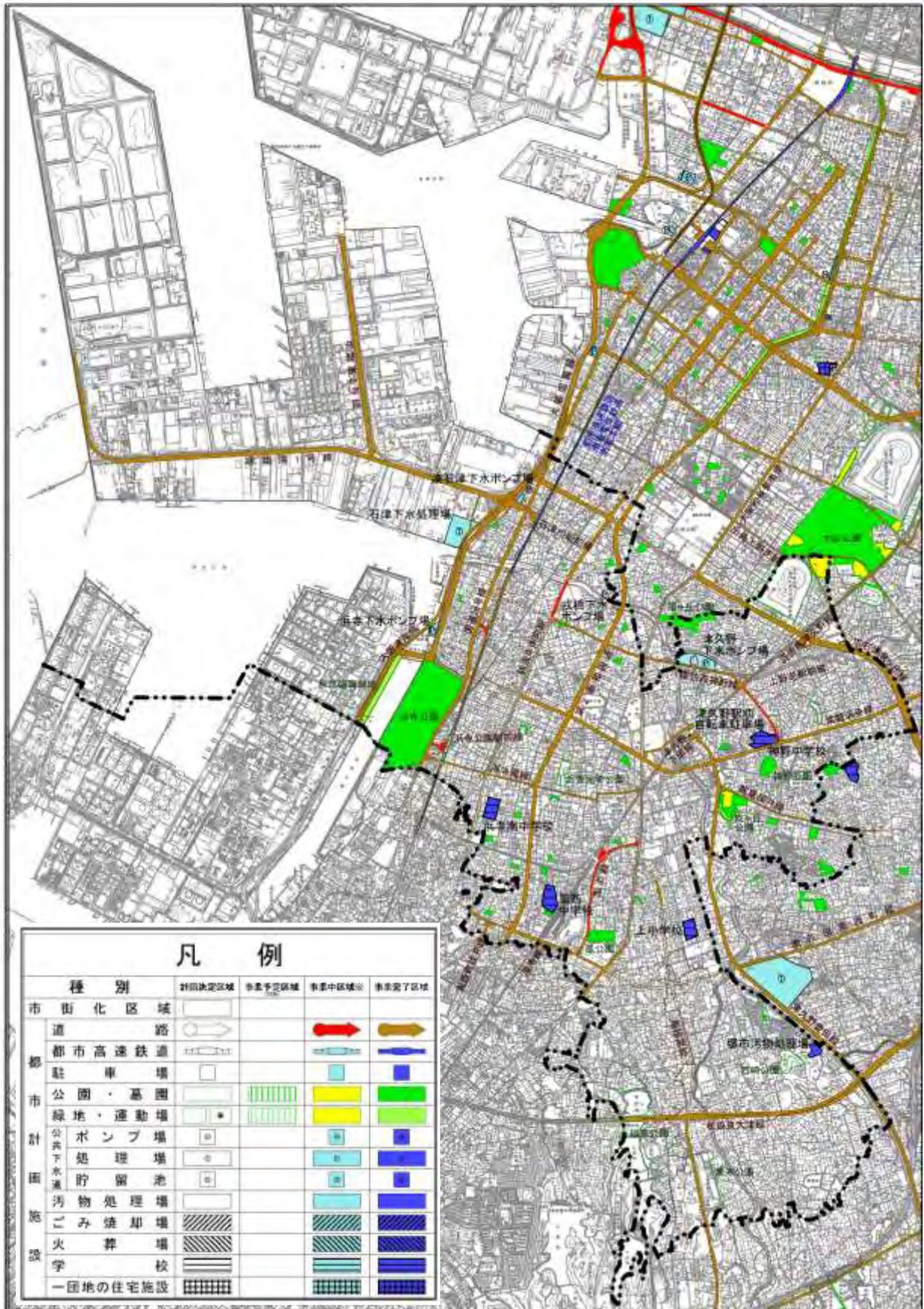
堺市汚物処理場（堺市化学処理場）が立地しています。

### (5) 市街地整備

- 西区は、古くから耕地整理、土地区画整理事業による基盤整備が進められてきました。現在、南海本線連続立体交差事業にあわせ平成17年に計画決定された浜寺公園駅前地区土地区画整理事業が行われています。

[都市計画施設状況図]

(平成23年3月末現在)



※各名称については、都市計画施設名称で表記しています。

※事業中区域とは、都市計画事業認可を受けている区域だけでなく、都市計画施設を事業している全ての区域を表しています。

## 2. 区域の特性

### (1) 発展経過

- 西区は、古代には和泉国大鳥郡大鳥郷・日下部郷・石津郷に属していました。
- 履中天皇陵古墳、大鳥大社、紀州街道などがみられるほか、明治初期までは農村地帯で条里遺構が見られ方形のため池も多く存在しました。明治6年に日本初の公園のひとつとして浜寺公園が指定されました。
- 明治30年に南海本線が浜寺～難波まで開通し、浜寺～高石にかけて高級住宅地開発が始まり、明治45年に阪堺線、昭和4年に現JR阪和線が開通し、沿線の市街化が始まりました。
- 昭和17年に浜寺町、鳳町、踞尾村、八田荘村、昭和36年に福泉町が本市に編入され、臨海部を除き、現在の西区域になりました。
- 昭和20年代に入り、紀州街道や熊野街道（小栗街道）は大改修され直線状の新道が開通し、鳳や菱木の内陸部に大規模な工場が進出しました。昭和33年に臨海工業地の埋立が始まり、石油コンビナートなどが集積し、白砂青松の海岸が消失しました。
- 昭和30～40年代の宅地化はめざましく、向ヶ丘団地などの大規模な公的住宅団地が次々と開発されました。また、昭和49年に第2阪和国道が開通しました。
- 平成8年に西支所が開所しました。平成14年に鳳駅南側は都市再生緊急整備地域の指定を受け、官民一体となって市街地整備を進めています。
- 臨海部の埋立地（堺第7-3区）では、長期にわたる産業廃棄物の受け入れが終了し、市民等の参加のもとで共生の森の整備、また、低炭素型エネルギー生産拠点の形成が進められています。

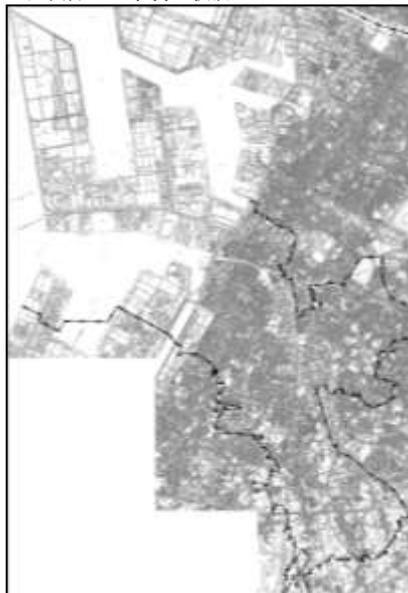
◆明治42年頃の状況



◆昭和24年頃の状況

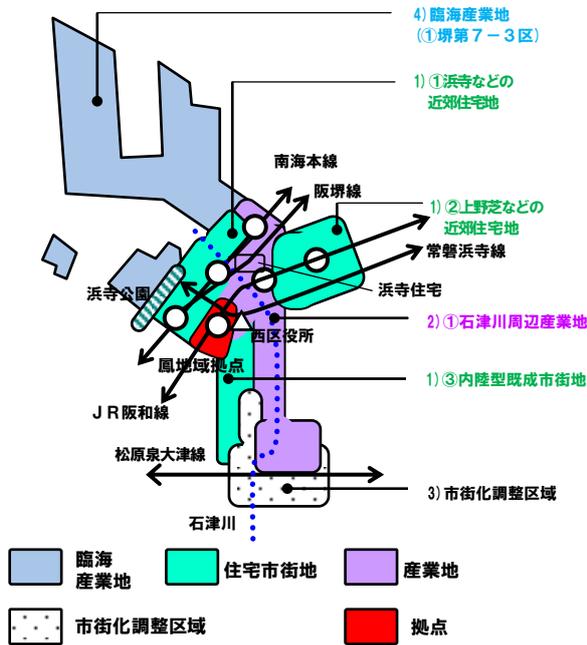


◆平成21年頃の状況



(2) 区を構成する地域の特性

[地域構成図]



[地域資源図]



○西区は、大きく北部の臨海産業地、中部の住宅市街地および石津川沿いの産業地、南部の市街化調整区域から構成されます。住宅市街地では、浜寺や上野芝をはじめとした良好なまちなみの住宅地などがみられます。南部には田畑が広がり、小規模な樹林地もみられます。臨海産業地は、低炭素型エネルギー生産拠点の形成が進んでいます。

○堺泉北港、浜寺公園と泉北臨海緑地に挟まれた浜寺水路や、石津川、百済川などの河川、ため池など、多様な水辺空間に恵まれています。

○履中天皇陵古墳・文珠塚古墳や四ツ池遺跡、石津太神社、大鳥大社や家原寺、日部神社など歴史・文化資源を数多く有しています。また、紀州街道、熊野街道（小栗街道）が通り、一部に歴史的なまちなみを残しています。